

唐丹の民話・2話「大石地区」

身の**危険**を知らせた

**阿弥陀仏**さま



平成18年10月

唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ

## 目 次

### 一身の危険を知らせた阿弥陀仏さま―

- 唐丹民話の再話著作にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
1. 夢枕に立った阿弥陀仏さま・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  2. 阿弥陀仏さま、再び大船渡へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  3. 阿弥陀仏さまの「知りまし」(知らせごと)・・・・・・・・・・ 4

## 唐丹民話の再話著作にあたって

唐丹公民館の自主パソコンクラブ（設立：平成17年6月／名称：唐丹・愛ちゃんネットクラブ）では、パソコンによる文章作成を習得した証と民話を伝承する狙いを含めて民話の再話著作活動を実施しました。

文章作成の教材は、釜石民話の会（平成2年発足）の機関紙「釜石民話」を活用させていただきました。

この釜石民話の中から、唐丹に関り、かつ再話できるものを選び。その根底にあるものを変えないことを基本に「見やすく」、「読みやすく」、「分かりやすく」するために小見出しを付け、写真や絵図などを挿入。できるだけ、関連する歴史や実話を織り込みながら作成しました。

いつの日か、この冊子が誰かの目に留まり、唐丹にもこんな話があったのかと唐丹の「いにしえ」に想いをはせる一助になれば幸いと思います。

おわりに、この活用させていただいている民話は、釜石民話の会会員でありました唐丹町片岸の加藤ムツさんが採録（聴き取り）したものであり、第1集から第6集に掲載の民話の数は92編を数えます。

加藤ムツさんの民話を伝承したいという、この熱意と努力に敬意を表するとともに、故人となられました加藤ムツさんのご冥福をお祈り申し上げます。

なお、この物話の「身の危険を知らせた阿弥陀仏さま」は、釜石民話第4集「死を知らせてくれた観音様」を再話著作したもので、その釜石民話第4集「死を知らせてくれた観音様」の原文は次のとおりであります。

大石に「わかだ」という水産加工屋がありました。家の守り神様の観音様を鰯を燻製にする加工場に祀って毎日拝んでおりましたが、故あって大船渡の西光寺に嫁いだ叔母のもとにあずけました。しかし、毎夜の如く其の叔母の夢枕に観音様が立って大石に帰りたいと云うのだそうです。それで大石に帰らせました。大石部落の人々は、皆で迎えてくれたと云うことです。

それから家運が傾き盛に移り住むことになり、其の時観音様も移したと云う事です。30センチ程の木像で長い年月燻製小屋に置かれていたので真っ黒にすすけていたそうですが、大石の人々は、この時もねんごろに拝んでおくってくれたと云う事です。

盛の新居の仏間に安置して拝んでおりましたが、ある日、その観音様が座敷の真中に倒れていたそうで、何事も起こらねばと案じている2日後に、洋品店に商売変えた初日の事、其の家の主人公が家の前で自動車事故にあって、亡くなったと云う事です。後程思えば観音様が教えてくれたもののようです。

小野 文さん 74歳

## 身の危険を知らせた阿弥陀仏さま

### 1. 夢枕に立つ阿弥陀仏さま

大石に「わかた」という屋号の家があり、昭和年代の初めごろまで水産加工を営んでいました。

鰹を燻製する加工場に、家の守り神である、木造りで立像（30センチほど）の阿弥陀仏さまを祀って、毎日拝んでいました。が、家運が傾いたとき、故あって、大船渡の西光寺に嫁いでいる叔母のもとに仏壇と共にあずけました。

しかし、阿弥陀仏さまが、毎晩のように叔母の夢枕に立っては、「大石に帰りたい」。「大石に帰りたい」。と言うので、大石に送り帰らせました。大石の人たちは、部落民総出でお迎えしてくれました。



(西光寺)

### 2. 阿弥陀仏さま、再び大船渡へ

しばらくして、新たに商売をするため、阿弥陀仏さまも一緒に大船渡に移り住むことになりました。



(大船渡の風景)

阿弥陀仏さまは、長い年月鰹を燻製する加工場に、祀り置かれていたため、真っ黒にすすけていましたが、大石の人たちは、この時も、部落民総出でねんごろに拝み、船を出して、家族ともども大船渡まで送ってくれたのです。

家運は傾いたとは言え、大石の人たちの「わかた」に対する感謝の気持ちと人情あふれる、ねんごろな見送りでした。

### 3. 阿弥陀仏さまの「知りまし」(知らせごと)

阿弥陀仏さまは、大船渡の新居の仏間に安置して、大石に居た時と同じく毎日拝んでいました。



(わかたの阿弥陀仏様)

後で思えば、阿弥陀仏さまが仏壇から転がり落ちて、身の危険を知らせてくれたのではと家族は想っていると言っています。

ある日、その阿弥陀仏さまが、仏壇から落ち、仏間の真中に倒れていました。家族は、一瞬不吉な予感がし、何事も起こらねばよいかと案じていた数日後、事故は起きました。

それは、洋品店に商売を変えた初日に、主人が交通事故に遭い、大船渡の地で亡くなってしまいました。

おしまい

◎釜石の民話・第4集：死を知らせてくれた観音さま

○話 し 手：小野フミさん／小白浜（小野文商店）

・「わかた」主人の妻の姉

○聴 き 手：加藤ムツさん／片岸

●再話著者：高橋昌子／小白浜地区

・新沼裕／本郷地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●写真撮影者：新沼 裕（同 上）

●校正指導者：新沼 裕（同 上）

◎再確認者：上野クニさん（主人の妻・旧姓石本）／大船渡

●再話完成：平成18年10月

(注)

「わかた」は浄土真宗のため、元の話の「観音様」を浄土真宗の本尊である「阿弥陀仏様」に訂正しました。

(参考)

大船渡へ転居後、阿弥陀仏さまを京都の仏具屋に頼んで、「すす」などを取り除きました。が、「すす」が染み込んでいて黒ずんでいます。